

文科省の金子補佐が資料 16-2(米国の宇宙政策会議)を 5 分弱で説明した後、6 分余の質疑応答があった。(2 月 1 日にオバマ大統領の予算教書でスペース・エクスプロレーション・イニシアティブの中止が発表されたが、本年 4 月 15 日にフロリダのケネディ宇宙センタにてオバマ大統領出席の下宇宙政策会議が行われた。其の場で米国の宇宙政策が公表されたが、基本的には予算教書の方向性が踏襲されており、新たに定量的な目標が付け加えられた。配布資料にアンダーラインを付けて示されている。)

池上委員長:ご意見、ご質問御座いませんか。...はい、どうぞ。

青江:此の予算教書の発表の時からどうも良く分かんないんですけども、今以て分からないんですが、開発を取りやめたアレス 1 と、新しく開発する新しい大型ロケットと云うのは、何処がどう違うのか。開発を取りやめたオリオンと、まあ新しく開発する新しい宇宙船と云うのは、何処がどう違うのか。.....と云うのがどうも良く分からない¹ですがネ。

金子補佐:エエトまあ、ご指摘に十分にお答得出来る情報持ち合わせておりませんが、我々理解して御座いますのは、その、ヘビーリフトにつきましては 2015 年迄に設計を固めると云

¹ 構成や構造や部品と云った、目に見える部分の違いを質問している様に感じる。回答する金子補佐も其の様に感じているらしい。そうではなく、打上コスト(機体の価格、射場での運用コスト、その他)やペイロードインターフェイス要求等、詳細設計段階での変更では要求を満たしそうにないから開発を止め、概念設計からやり直そうと決断したのではないだろうか。

う事なので、あの、彼等としてもこれから詳細を、どう云ったものが一番望ましいのか研究をして行くと云う、当にそう云った段階にあるんじゃないかと云う風に理解してます。

青江:まあ、だから、その、まあ、其れ、良く聞いて欲しいんですけどネ。何処がどう違うのか、其れで何で其れを取り上げなければならなかったのか、云うのは知りたいじゃないですか。

金子補佐:はい。エー、良く情報収集したいと思います。

青江:はい。

池上委員長:あの、此のオリオンは、ですからコンステレーション計画を中止しましたと。すとアレスが消えましたと。オリオンも消えたと思ったんだけど、オリオン・ライクのものを作りましよう、斯う云ってる訳ですよネエ。で、此れはどう、どうっちゃおかしいんですけど、此れ矢張りアレスなんですかネエ、ソユーズだけに頼るって事はアメリカとしては非常に不安ですよって云う事なんでしょうかネエ。

金子補佐:エエトあの、資料としても、他国への依存と云うのを抑える効果があると云う風に記述がされてますので、そう云った効果も当然狙って居るんだと思います。で、あと一つ特徴的なのは、エエト、脱出用なのですが、無人で先ずはステーションにあの一、置いておいて、何かあった場合にリターンだけやると云う風に、資料上記載²されて御座います。其処は一寸特徴的かなと理解してますが。

² 誤解ではないか。現在もソユーズは常に係留されている。

青江: 其れと、ソユーズに全面的に頼らないと云う事と、どう関係しとるんですか。

池上委員長: いや、ですから、

青江: 単に緊急脱出用なんでしょ。所謂、言ってみれば輸送系の一翼を担うモンとは違う³んでしょ。

池上委員長: いや、あの、でも、何かあった場合に、まあ、そう云う事は無いと思いますが、ソユーズがアメリカの飛行士は下ろさないよと言われると困りますネエと云う、フッフッフ。

青江: カッ。

池上委員長: グルジアの問題とか色々あるんで、矢張りそう云う事を心配する方も、アメリカに居ても、或る意味では理解は出来るなど。フッフッフ。

金子補佐: 何れにしても、良く良くあの、情報収集する事が先ず第一かなと考えて居ります。

池上委員長: あと、今回もですネ、エエト...ウ...此の英語の文章の2頁目の下の方⁴にですネ、ロボティックスの事が書いてあるんですが、あの、プレカーサ・ロボティックス・エクスプロレーション・ミッションてな事が書いてありましてネ、此れ見

³ 此れも誤解だろう。人員輸送手段は当面ソユーズだけになる。一國に頼ると云う脆弱性のみならず、一手段に頼る事がそもそも脆弱だと考えるのが自然だと思う。ISS にロシアが参加する前に、チャレンジャの事故に依って計画が大幅に遅れた経験は、極めて重要な反省点だろう。

⁴ 探し出すのに苦労したが、英文資料の3頁目の最後の3行の事を言っている。

ると日本の基本計画を、何か良く見てるナアと云う風に思ったんですが、どうでしょうか。実際、日本ではですネ、例の二足歩行で以てスッタモンダした訳で御座いますけれど、アメリカの方は何かロボットをヒューマノイド・ロボットを打上げるって云う風な話もありますし、で、此のプリカーサ・ロボティック・エクスプロレーションて言うと、あの、何か宇宙開発委員会のあの、月の委員会で色々検討してるのと良く似てるなあと云う風に思う⁵んですがネ。どうなんですネエ。此れ良いとこ取りをしてる様な、少なくとも紙に書かれたものについては、そう云う感じを受けるんですけど、どうでしょうかネエ。

金子補佐: あのー、まあ、此処でプリカーサ・ロボティックスって言うてんのは、あのー、基本的にはあの、無人探査の全般の技術開発と云うのを意図しているんで、今ご指摘いただいた様なそのー、形態に

池上委員長: アレ(?)ですヨネ。

金子補佐: ええ、...の議論ではないのかナアと。まあ、何れにせよ、そう云った形態のロボティックスって言うか、無人探査って云うのが、もっともあのー、より良いものかと云うのを考え用語云う事かナアと。

⁵ 此処に書いてあるのは、「Launches a steady stream of precursor robotic exploration missions to scout locations and demonstrate technologies to increase the safety and capability of future human missions, while also providing scientific dividends.」であり、具体的な事を推測できる情報は一切ない。

池上委員長: 勿論、最終的にはその、ヒューマン・スペース・フライトになってるって事なんですけどネ、此のムニャムニャ。

井上: その、でも、従来からも、あの、アメリカ側のやり方は、宇宙科学と言ってる範疇に無人のロボティクスに依存する月惑星探査ってのは、そっち側に、従来から行われてきた部分と、それから今、寧ろ宇宙探査として分けられてる処は有人活動としての宇宙探査と云う、まあ、... なりますので、従来からも無人での探査と云うのは十分、その、技術開発的な事は行われて来ると云う...

池上委員長: ア、あの、ですから、無人ではそうなんですけれど、**ヒューマン・スペース・フライトで積極的にロボティクスを使う⁶**と云うのは無かったと思うんですヨネ。ですから、エクスプロレーションの調査にはローバ等々、色々もう既に火星にも送ってますしネ、其れはもう当然だと云うムニャムニャ。ヒューマン・スペース・フライトを助けると云う様な事を、前よりは積極的に言ってる様な感じで... で、此れは日本の基本計画の中で分かったんじゃないかなア。フッフッフ。

(暫し沈黙)

池上委員長: 他に何かご質問なり、... ア、今後又色々あの、情報を得ながら、ア、勿論その、アメリカが斯うやったから日本は斯うやると云う事ではないです... けれど、アメリカとしてど

うするかって云う事を色々フォローアップして下さいヨ。
... 宜しいですか... じゃどうも有り難う御座いました。

⁶ 此れも、勝手な推論である。ヒューマン・スペース・フライトを担当する部署がロボット技術開発を行うと云う事は全く書かれておらず、単にロボット技術を「将来の有人ミッションの安全性や可能性を増す技術」と言っているだけである。